

名古屋城天守閣を木造復元し、旧町名を復活する有志の会 2023年1月28日

新説！桶狭間の戦い その謎を解く

歴史ライター 水野誠志朗

daysmizuno@gmail.com



尾張と他国の国力の差

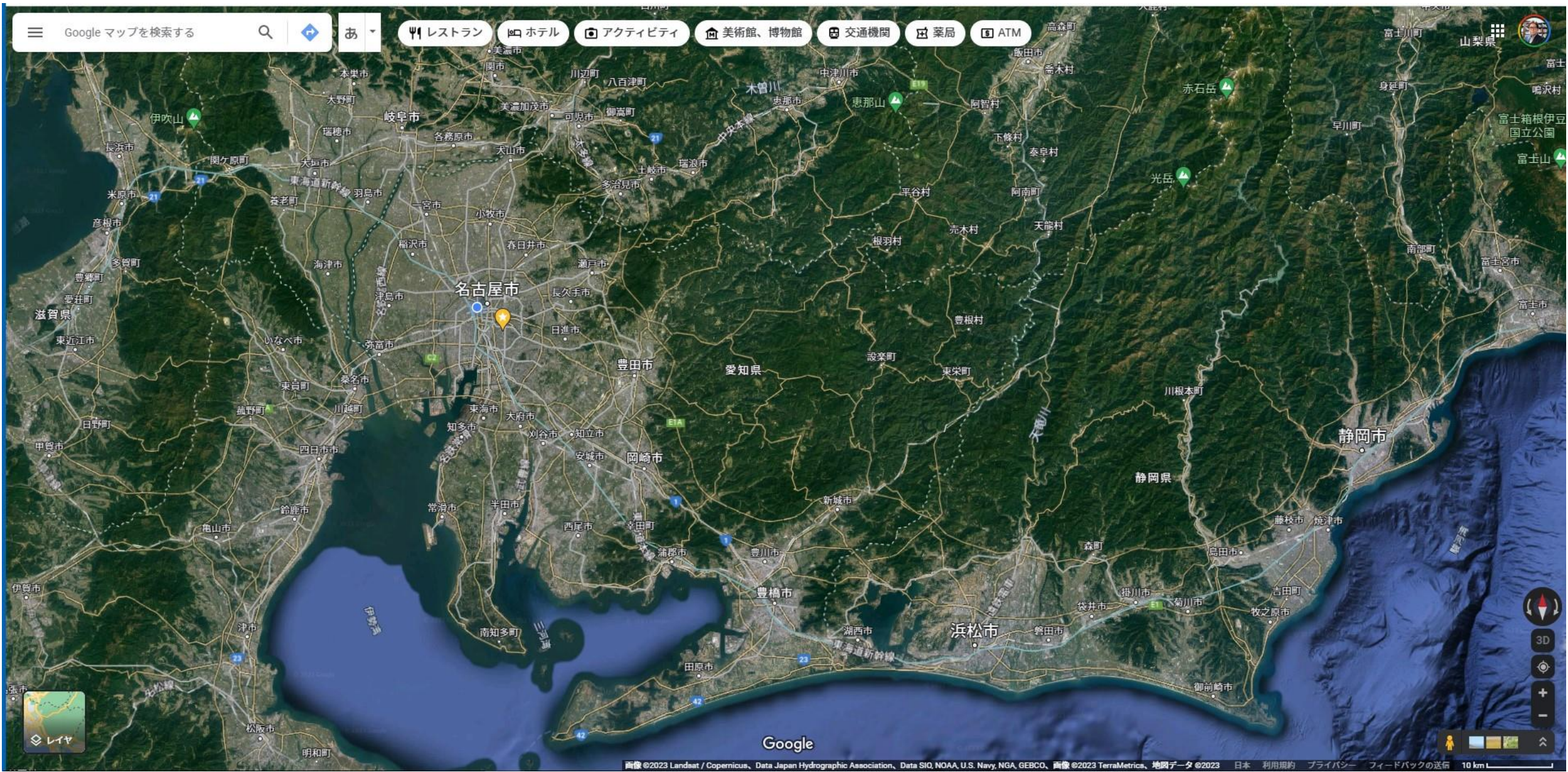
信長の死後、1598年の太閤検地によれば

今川 駿河15万石 (静岡県中部)
遠江25万石 (静岡県西部)
小計40万石

三河29万石 (愛知県東部)
合計69万石

織田 尾張57万石 (愛知県西部)

斎藤 美濃54万石 (岐阜県南部)
武田 甲斐22万石 (山梨県)
長尾 越後39万石 (新潟県)
信濃40万石 (長野県)



●重要なポイント

- ・
- ・ 領地の少ない今川は東国の論理で、西に領土を拡張しようとした。
- ・ 身分の高い今川一族は尾張国内にも勢力を持っていた。
- ・ 信長は天皇からの停戦勧告を破って戦いを始め「大うつけ」と呼ばれた。
- ・ 信長は約十年間の過酷な実戦経験を積んだ。
- ・ 信秀のような傭兵部隊ではなく、親衛隊（職業戦闘兵）を養成した。
- ・ 国内の敵は親今川勢だった。
- ・ 三河の反今川勢を支援した
- ・ 二年前には、尾張へ侵攻した今川勢の大半を追い返し、守護まで追放して尾張の主というポジションを確保した
- ・ 上洛して將軍を助けることを決意した信長は、今川を追い出すため、決着をつけるべく、桶狭間の戦いを仕掛けた。

「各能々承候へ、あの武者は宵に兵糧つかひ夜も
すから参り大高へ兵糧入、鷺津・丸根両城にて手
ヲ碎辛勞して草駄たる武者也、こなたハ新手成、其
上莫小軍ニシテ怖ルゝコト大敵ヲ、運は在於天、此
語ハ不知乎かゝらハ引、ひかは引付、於是非稠倒
シ可追崩事案ノ内也、一切不可為分捕、軍に勝ち
ぬれは此場へ乗たる者家之面目末代之高名也、
唯可励」(天理本首卷より)

新説のキーは信長の演説が正しいのかどうか

「みなよく聞くように。あそこに見える敵勢は、昨夜の夕方に食事をしただけで、一晩かけて大高まで行軍して兵を入れたうえ、今朝は鷲津・丸根という二つの城攻めを行って骨折りし、青息吐息で、くたびれている敵ではないか。味方はまだ一戦もしていない新手であるぞ。

それだけではない、兵数が少ないからと言って大軍を恐れるな、運は天にある。次のような戦訓を知らないか。味方が攻撃していけば敵は退く。敵が退いたらそれに付け込み敵に密着して離れるな。かさにかかって攻め立てよ。こうすれば必ずや敵をひねり倒し、追い崩すことができるのは言うまでもない。

一切分捕りをしてはならない、この戦いに勝ったならば、この場に参陣した者は家の名誉である。末代までも功名が鳴り響くのだ。ただただ各々力を尽くせ」

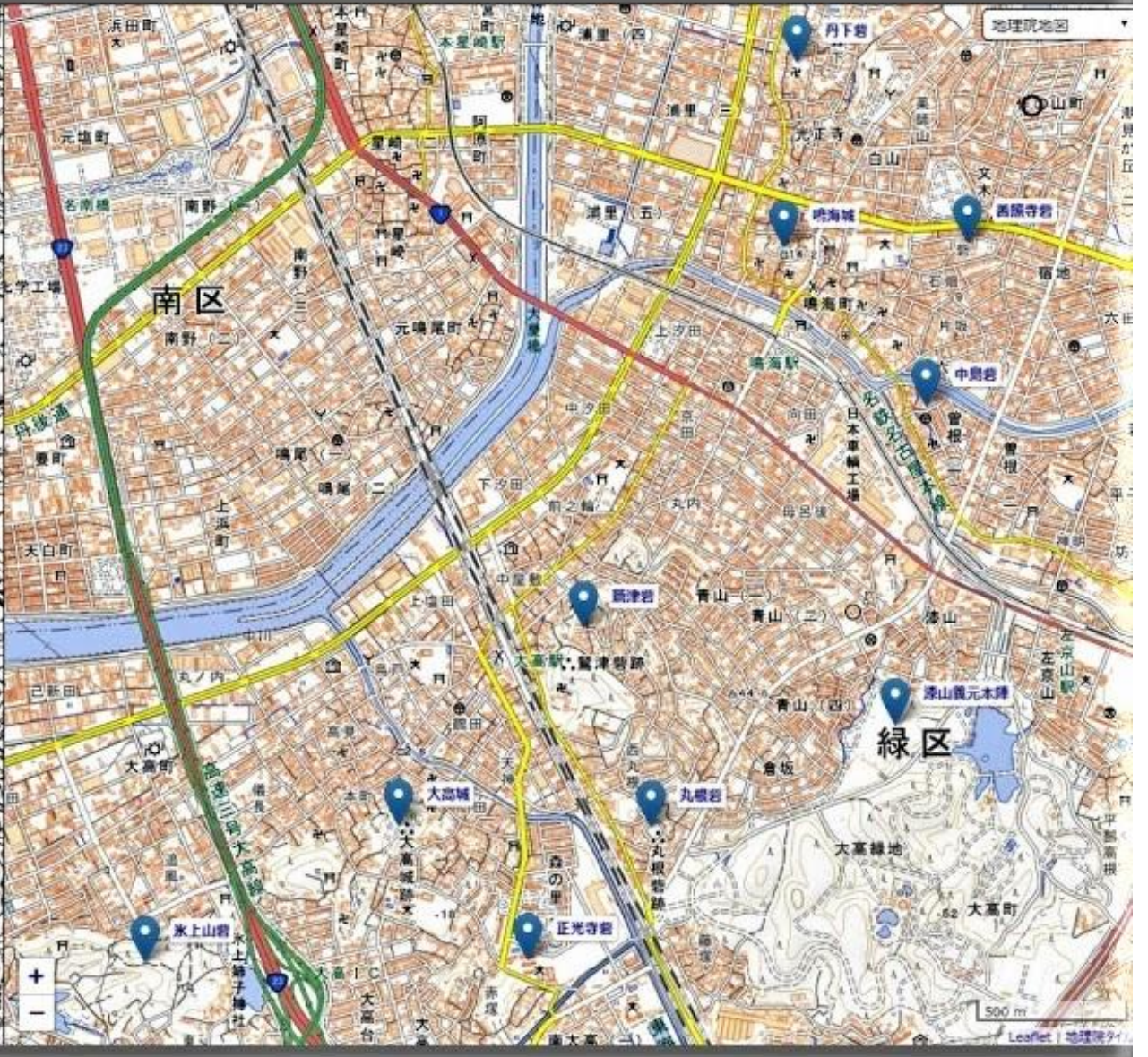
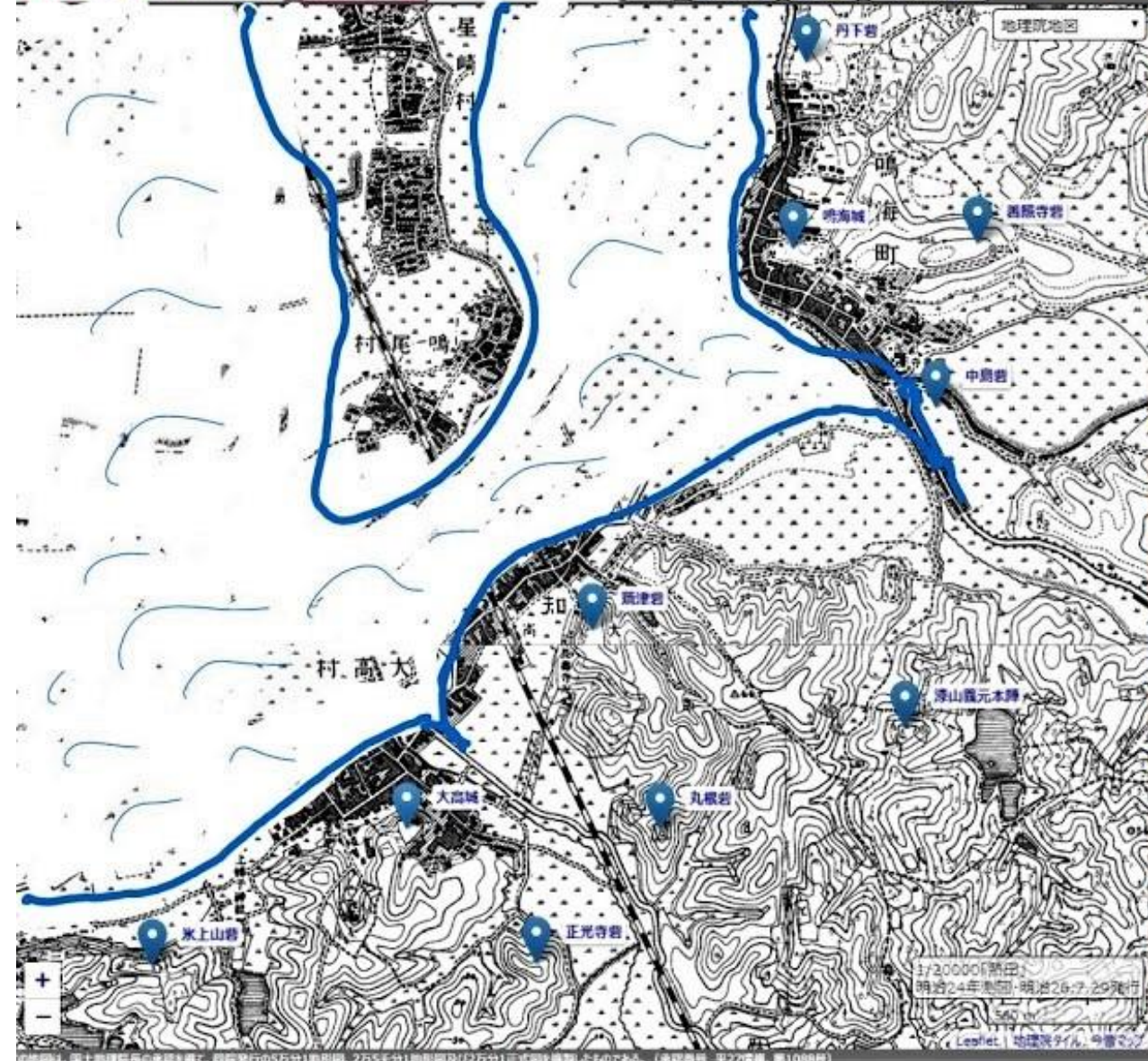
桶狭間の戦いの新説を箇条書き

- 1 義元は信長に囲まれた大高城を後詰（救援）するため、必勝体制の大軍でやってきた。
- 2 義元は元康（家康）とともに前日に大高城に入り、砦を巡見した。
- 3 戦い当日、義元は漆山に本陣を置き、夜明けに鷺津・丸根砦を攻めさせた。
- 4 2つの砦を落としても信長が現れないので、三河への撤退を始めた。
- 5 義元は織田方目前を威嚇しながら鳴海～桶狭間道を桶狭間に向かって撤退し始めた。
- 6 義元が高根山に着いた時、信長が善照寺砦に到着した。
- 7 先行していた佐々・千秋隊が撤退を遅らせようと襲撃したが完敗した。
- 8 義元が信長の攻撃はないと判断し、一隊を残して高根山を下り、桶狭間の高所に移った。
- 9 攻撃を決めていた信長は、制止を振り切って、中島砦を出陣した。
- 10 信長が高根山の裾野まできた時、ゲリラ豪雨となり、義元勢は大混乱した。
- 11 信長はこれを戦機と判断し、豪雨にまぎれて閑道（後の東海道筋）を進み、義元本陣右翼へまわりこんだ。
- 12 雨が上がったと同時に、北から義元勢に突入し、東の義元本陣を発見し襲った。
- 13 短時間の戦いで義元は討ち取られ、今川勢は敗走し、信長が勝利した。

取切ニテ取火丈ニ梅丸根山ニ
佐久間大等入置鶴島津山ニ
飯尾近江守國隱守織田守
義

大高之南大野小河元置
五月十七日今川義元清懸ノ

系陣十八日取火大高ノ名糧
入置助糧十九日相極ミ満下
動ノニテ取火取おと可拂
ノ自名と相関ラヤ十八日
晚ニ佐久間大等入置鶴島
ノ名糧其ノ名ノ清懸









善照寺砦跡

永禄二年(五五九)、今川方の猛将岡部元信が守る鳴海城に備えて、織田信長が築いた三砦の一つである。永禄三年桶狭間の戦いのころには、佐久間右衛門と舎弟同左京亮が守っていたが、五月十九日、桶狭間に今川義元を奇襲する直前、信長はこの砦の下に兵を集結したといわれる。

名古屋市教育委員会

Zenshoji Fort

This fort was constructed by Oda Nobunaga as a counter-fort against Nerumi Castle guarded by Okabe Motonobu, a warrior general of Lord Imagawa. Nobunaga assembled his force at the fort right before his surprise attack on Imagawa Yoshimoto at Okazama on 19 May 1560.

平成十四年三月建之



名古屋市中区
善照寺砦跡
説明板











織田信長公

近世の曙

伊達義光公

ありがとうございました。
本日販売している本です。ぜひお求めを。

